

成人式祝辞

平成 30 年 1 月 7 日

冒頭挨拶

新成人の皆様、おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子さんを立派に育て上げられた保護者の皆様、ご家族の皆様にも重ねてお喜びを申し上げます。

みなさんの表情は、とても晴れやかで眩しくもあり、日本の未来は明るいぞと心強く感じています。皆さんにとっては、大人の仲間入りをすると感じた気負いよりは、久々の故郷での旧友との再会に心躍っていると言ったところが本当かもしれません。しかし、大きな節目でありますので、皆さんが過ごした 20 年の軌跡を、これまで皆さんを支えてくれたご両親や大勢の方々との出会いに感謝しつつ、思い返して噛みしめていただきたいと思います。

もちろん、折角ですので、「権利や自由、責任や義務」について、或は「自分が社会の一員として生きていくにはどうしたらよいか」、「そしてどんな大人になりたいか」など、考える機会としていただければ幸いです。

生まれ年

今年の新成人の皆さんは、平成 9 年 4 月 2 日(1997 年)から翌 10 年 4 月 1 日までの間に生まれた方々であります。平成 9 年の 4 月には消費税の税率が 3%から 5%に引き上げられ、本格的なデフレを招く引き金となりました。その後は、数々の銀行や証券会社が倒産し、有効求人倍率は 0.5 を下回る就職氷河期を迎えるなど、後に「失われた 10 年」と呼ばれる経済低迷期にありましたが、翌年の平成 10 年には長野オリンピックが開催されています。今年は、隣国の韓国で平昌オリンピックが開催されますが、新成人の皆さんと同世代の若い選手の活躍にも、大いに期待したいところです。

近年は、景気も持ち直しており、有効求人倍率では 1 倍を大きく上回っています。いわゆる、売り手市場の雇用環境にあります。反面、様々な分野で人材不足が顕在化しており、社会問題化しつつあります。これは、人口の首都圏への集中と業種間の所得格差が直接的な原因ではありますが、生産年齢人口の減少が根本にあると考えています。本日に因んだ数字を例にしますと、皆さんの生まれた 20 年前の新成人人口は 174 万人で、今年は 123 万人と 30%も減少しています。今後も生産年齢人口は減少し続けますが、今囁かれている 2030 年問題は、この生産年齢人口の減少がもたらす様々な弊害を、「既に起こった未来」として予見しているものです。

さて本年は、北海道と名付けられてから 150 年目という節目を迎えます。名付け親といわれる松浦武四郎生誕 200 周年にも当たります。因みに厚真町は、明治 30 年に分離独立して戸長役場を設置してから 122 年目となります。皆さんが生まれ育ったこのまちは、そして北海道は多くの先人が幾多の困難を乗り越えながら切り開き、先輩諸賢がそれを受け継いできたことで繁栄してきました。私たちは、その成果を継承し、持続的に発展させていかなければなりません。

厚真町は現在、子育て支援住宅の建設や子育て世代の負担軽減など移住を促し、若い世代の創業や一次産業への参入を支援するなど、移住・定住に関する様々な取り組みを行って

るところです。幸いにも、こうした取り組みにより4年連続して人口が社会増となり、昨年の地方自治法施行70周年の記念式典で総務大臣表彰を受賞しました。厚真町は「人を育て、人を残し、豊かな森と海、輝く田園を次世代へ」をテーマとしてまちづくりを進めていますが、この栄えある受賞に恥じぬよう関係機関と一丸となって、これからも押し寄せる人口減少社会に立ち向かってまいります。そのためにも、皆さんのような若い世代の力が必要です。皆さんがふるさと厚真に誇りと愛着を持ち、皆さんの手で皆さんのための新しい時代を築いていただきたいと願っています。

大人の自覚と政治参加

ここで私からふたつばかりお願いがあります。20才ともなれば、これまで以上に周囲から皆様に対する期待が大きく膨らんでまいります。具体的に申し上げますと、権利と自由はより大きなものとなり、その代わり責任や義務はより重くなります。しかし、この自由や権利は、安全で健全な社会があって守られていることを忘れてはなりません。

もう一つは、政治参加に関するお願いです。衆・参の国政選挙、知事・市町村長・各議会議員などの地方選挙が毎年のように執行されますが、投票率の低下に歯止めがかからないことが心配です。皆様方は一昨年の参議院議員通常選挙で初めて選挙権が与えられ、昨年の衆議院議員総選挙でも権利を行使していると思います。日本の政治は選挙で選ばれた皆さんの代表がこれに当たりますが、棄権は、まだ見ぬ結果に白紙委任したことになります。つまり、棄権や白票は、時代や社会にもの申す権利と責任を放棄したことになります。皆さんが政治に興味を失えば、政治は皆さんからどんどん遠ざかり、民主主義も輝きを失ってしまいます。皆さんの未来のために是非投票に行きましょう。

贈る言葉

近未来の社会状況について先ほどほんの少し触れましたが、こんな指摘もあります。進化する人工知能が様々な分野に進出し、現在ある半数近くの仕事が自動化されるというものです。そんな未来を皆さんが創り出し、皆さんは適応していかなければなりません。そんな未来の創造者である皆さんに今伝えたい言葉を贈ります。一つ目は「自分らしく生きる。偽らずに最善を尽くそう」です。自分が持っているものを信じ、無いものや願望に惑わされてはなりません。最善を尽くして努力し続ければ、進むべき道がきっと見つかります。自分の進むべき道を知る者に、道は開かれます。

もう一つは、北海道の新しいキャッチフレーズ「その先の、道へ、北海道。」、英語バージョンでは「Hokkaido, Expanding Horizons.」。北海道には様々な可能性が広がっていること、そして、北海道が未来や世界に積極的に進んでいこうとする意志がこめられています。皆さんも北海道も厚真町も様々な可能性が広がっていますが、それを現実なものとするためには、強い意志と周到な準備と主体的に行動することが大切です。

皆さんがこれから歩む道は、決して平たんな道ではないかもしれませんが、ただ、支えてくれる人が必ずいます。多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねが、いつか必ず大きな実を結ぶことになるかと信じています。

結びに、皆様の前途とご家族の皆様に幸多かれとご祈念申し上げ、祝辞といたします。本日は、誠にありがとうございます。